

2017年度第2四半期 決算説明会

東ソー株式会社
2017年11月7日

目次

1. 2017年度の業績動向
2. 事業戦略・設備投資・研究開発
3. 株主還元

1. 2017年度の業績動向

1-1. 2017年度上期決算概要

(単位:億円)

	2017年度 上期予想	2017年度 上期実績	増 減
売 上 高	3,700	3,917	+217
営 業 利 益	440	545	+105
経 常 利 益	440	583	+143
純 利 益	300	403	+103

前提	為 替	円/US\$	110	111	+1
		円/€	115	126	+11
	ナ フ サ	円/KL	41,000	37,650	▲3,350

<業績予想比較>

- ウレタン製品や液体苛性など、海外市況が高水準で推移
- 国産ナフサ価格の下落によりVCMなどエチレン誘導品の原料価格が低下

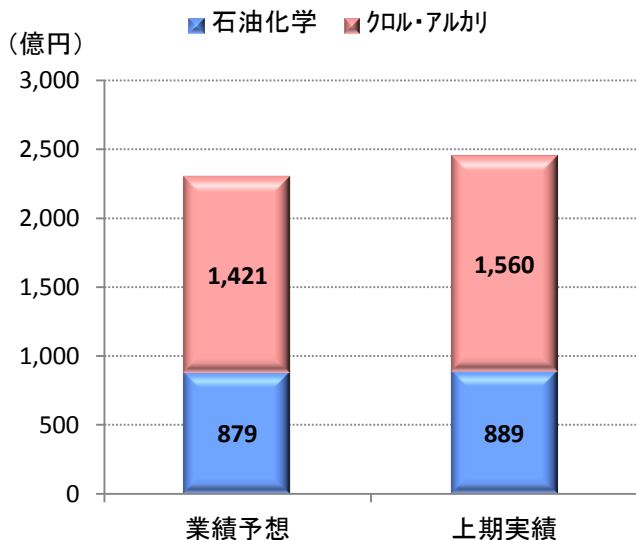
1-2. 2017年度上期実績(セグメント別)

(単位:億円)

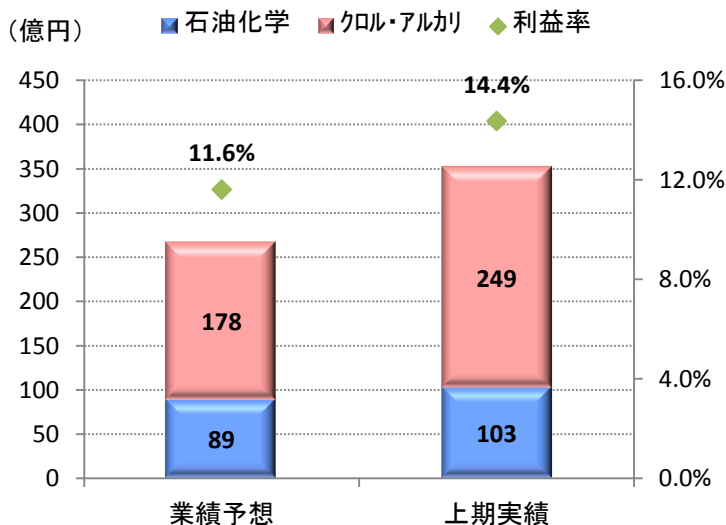
		2017年度		
		上期予想	上期実績	増減
売上高	石油化学	879	889	+10
	クロル・アルカリ	1,421	1,560	+139
	コモテ`イテ`イ計	2,300	2,449	+149
	機能商品	850	919	+69
	エンシ`ニアリンク`他	550	549	▲1
	計	3,700	3,917	+217
営業利益	石油化学	89	103	+14
	クロル・アルカリ	178	249	+71
	コモテ`イテ`イ計	267	352	+85
	機能商品	156	179	+23
	エンシ`ニアリンク`他	18	15	▲3
	計	440	545	+105

1-3. 2017年度上期実績 / COMMODITY

売上高



営業利益



化学品関連市況前提

		15年度実績	16年度実績	業績予想	上期実績
ナフサ	円/KL	42,755	34,675	41,000	37,650
PVC	\$/t	787	855	800-900	847
液体苛性	\$/t	346	388	400-500	494

<苛性ソーダ>

● 中国・インドなどアジアでのアルミ需要増で海外市況は高水準を維持

<PVC>

● インドでのGST導入やモンスーンにより需要の停滞は見られたものの、国産ナフサ価格の下落により原料価格が低下

ウレタン関連市況前提

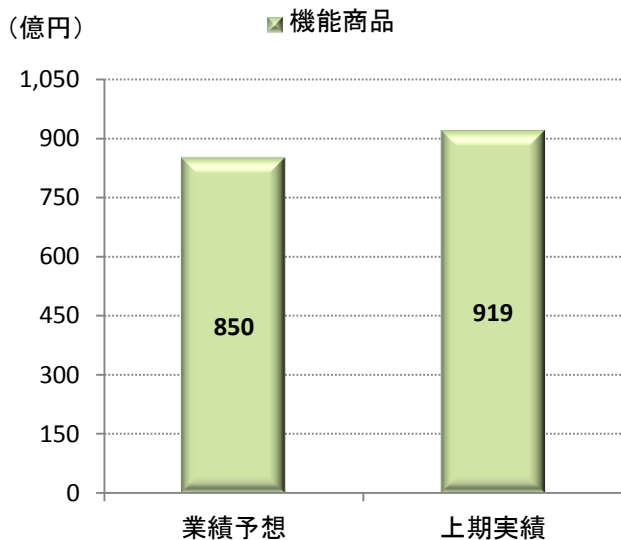
		15年度実績	16年度実績	業績予想	上期実績
MDI(モノ)	\$/t	1,719	1,922	2,300-2,500	2,652
スプレッド	\$/t	1,056	1,195	1,550-1,650	1,887
MDI(ホリ)	\$/t	1,147	1,544	1,800-2,000	2,177
スプレッド	\$/t	484	817	1,050-1,150	1,412
ベンゼン	\$/t	663	727	750-850	765

<MDI>

● 各地でのプラントトラブルや米国ハリケーンの影響もあり需給はタイト化、海外市況(特に中国)が上昇し、ベンゼンとのスプレッドが大幅に改善

1-4. 2017年度上期実績／SPECIALTY

売上高

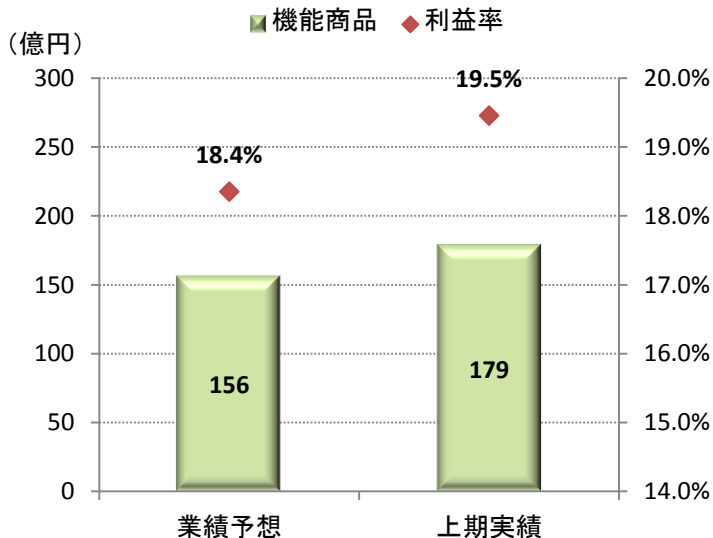


【戦略製品の拡販】

高機能材料：ハイシリカゼオライト(新興国市場規模拡大、新グレード継続投入)、
 ジルコニア(差別化グレード継続投入)
 有機化成品：エチレンアミン(ハイアミン化)、臭素・難燃剤(効率化投資)
 バイオサイエンス：トヨパール(バイオ医薬向け拡販)、AIA試薬(項目拡充)

・2017年度予想では、大型投資の完工による数量増を見込むも、完工に伴う償却負担増(臭素・ジルコニア・ハイシリカゼオライト)で16年度比減益、利益率も低下する想定

営業利益



償却負担増はあるものの(臭素・ジルコニア・ハイシリカゼオライト)、
 ・為替(ユーロ)は予想よりも円安で推移し、バイオサイエンス製品の手取りが改善
 ・ナフサ価格の下落とEDA市況の上昇によりエチレンアミンの交易条件改善
 ・ジルコニア・EDAなど販売増により増益
 ・利益率は19.5%の実績

1-5. 2017年度通期予想

(単位:億円)

	2017年度				
	上期実績	下期新予想	通期新予想	当初予想	増減
売上高	3,917	4,083	8,000	7,700	+300
営業利益	545	635	1,180	1,000	+180
経常利益	583	617	1,200	1,000	+200
純利益	403	417	820	680	+140

前提	為替	円/US\$	111	110	111	110	+1
		円/€	126	130	128	115	+13
	ナフサ	円/KL	37,650	43,000	40,325	41,000	▲675

＜上下比較＞

- 上/下定修差によるクロル・アルカリ製品の販売増や受払差による営業利益増
- ウレタン製品の海外市況下落を見込むも定修固定費の減少でカバー

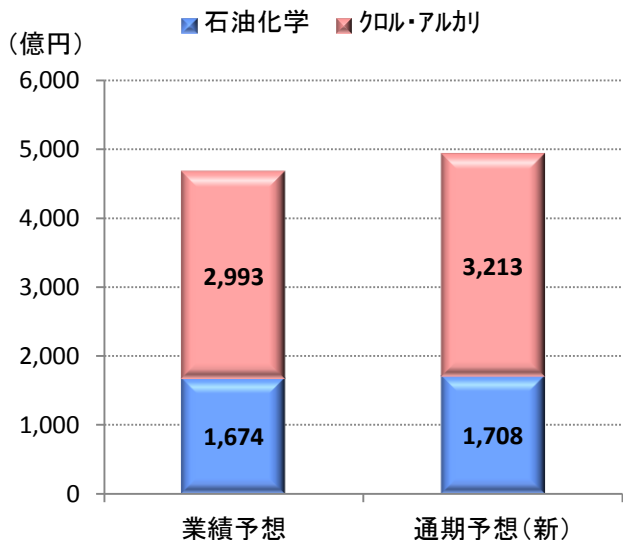
1-6. 2017年度通期予想(セグメント別)

(単位:億円)

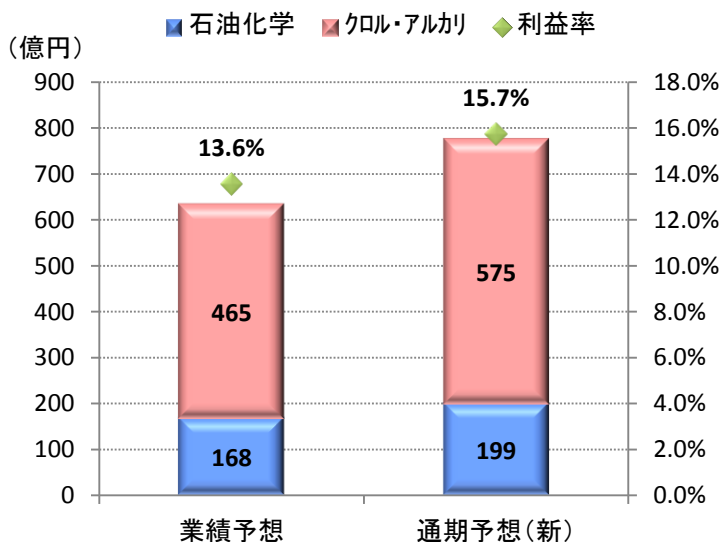
		2017年度				
		上期実績	下期予想 (新)	通期予想 (新)	通期予想 (当初)	通期増減
売上高	石油化学	889	819	1,708	1,674	+ 34
	クロル・アルカリ	1,560	1,653	3,213	2,993	+220
	コモディティ計	2,449	2,472	4,921	4,667	+254
	機能商品	919	913	1,832	1,760	+ 72
	エンジニアリング他	549	698	1,247	1,274	▲ 27
	計	3,917	4,083	8,000	7,700	+300
営業利益	石油化学	103	97	199	168	+ 32
	クロル・アルカリ	249	326	575	465	+110
	コモディティ計	352	422	774	633	+141
	機能商品	179	162	341	306	+ 35
	エンジニアリング他	15	51	65	61	+ 4
	計	545	635	1,180	1,000	+180

1-7. 2017年度通期予想 / COMMODITY

売上高



営業利益



化学品関連市況前提

		業績予想	上期実績	通期新予想
ナフサ	円/KL	41,000	37,650	40,325
PVC	\$/t	800-900	847	800-900
液体苛性	\$/t	400-500	494	450-550

<苛性ソーダ>

- 中国でアルミナ生産減も、電解稼働減により需給バランスは大きく変化しない見通し

<PVC>

- インド・アジア地域の需要は期待できるが、原料高で交易条件は悪化

ウレタン関連市況前提

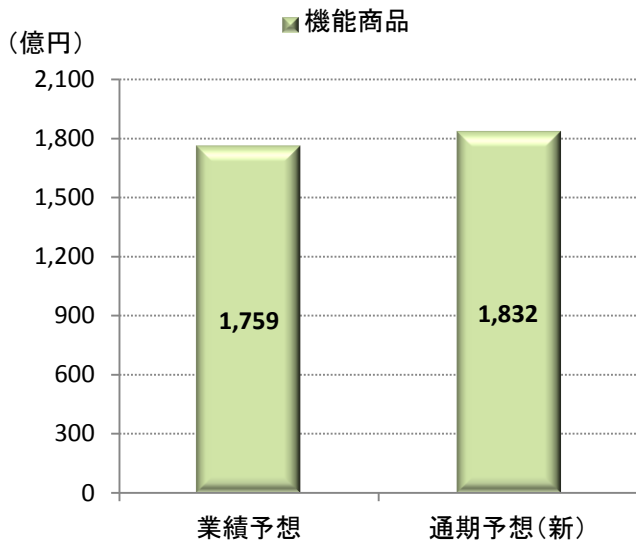
		業績予想	上期実績	通期新予想
MDI(モノ)	\$/t	2,300-2,500	2,652	2,400-2,600
スプレッド	\$/t	1,550-1,650	1,887	1,650-1,750
MDI(ホリ)	\$/t	1,800-1,900	2,177	2,000-2,200
スプレッド	\$/t	1,050	1,412	1,250-1,350
ベンゼン	\$/t	750-850	765	750-850

<MDI>

- 下期は、供給サイドの問題は解消に向かい需給は緩み、ベンゼンとのスプレッドは縮小する見込みも、通期で当初予想を上回る想定

1-8. 2017年度通期予想／SPECIALTY

売上高



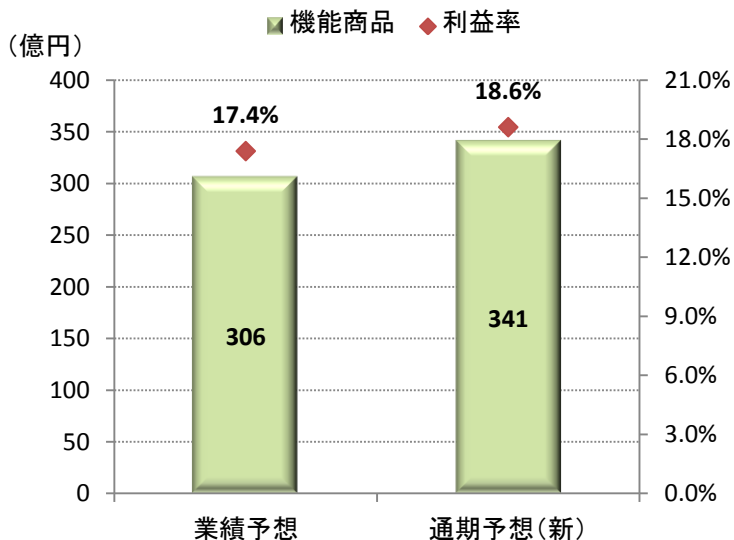
【戦略製品の拡販】

高機能材料：ハイシリカゼオライト(新興国市場規模拡大、新グレード継続投入)、
ジルコニア(差別化グレード継続投入)

有機化成品：エチレンアミン(ハイアミン化)、臭素・難燃剤(効率化投資)

バイオサイエンス：トヨパール(バイオ医薬向け拡販)、AIA試薬(項目拡充)

営業利益



下期状況としては、

- ・エチレンアミンは、EDA市況の下落およびナフサ価格上昇により
取引条件は悪化
- ・バイオサイエンス製品の手取りが改善(ユーロに対して円安が継続)
- ・ジルコニアの販売は堅調に推移する見込み
- ・営業利益は当初予想比+35億円の増益、利益率は1.3%改善

2. 事業戦略・設備投資・研究開発

2-1. 事業戦略／COMMODITY

【戦略方針】 競争力・収益力の強化

化学品

- 競争力ある原燃料の安定調達の追求
- 発電設備の効率化、電力託送等による競争力強化
- フィリピン子会社(PRII社)でのPVC生産能力増強
- ソーダ・塩素誘導品の収益力強化

オレフィン

- 分解炉効率化、ガスタービン設置による競争力強化
- 各留分をバランス良く自消・販売し、クッカーの高稼働を維持
- 適正なスプレッドを乗せた価格体系の構築

ウレタン

<MDI>

- 「汎用品」⇒「特殊品」、「単品販売」⇒「システム販売」へのシフトを加速
- 東南アジア、インド、北米への販売強化

<機能性ウレタン>

- 医療分野(シール材等)での拡販
- HDI誘導品の生産能力増強

ポリマー

<ポリエチレン>

- 食品・医療・電子分野向け特殊グレードの国内拡販及び海外展開強化
- 品質改良によるハイエンド分野への参入

<機能性ポリマー>

- CR: 得意グレードの拡販、能力増強検討
- CSM: 新規用途での拡販へ、開発促進
- 新規ポリマー(耐油性向上)の上市

【戦略方針】 成長事業へ拡大投資、R&D・M&Aによる事業領域の拡充

高機能

〈ハイシリカゼオライト〉

- 新グレード開発体制の強化
- 南陽での次期能力増強

〈ジルコニア〉

- 歯科材料:透光感グレードの拡充
- 装飾用途:顧客ニーズにマッチした材料開発の迅速化
- 新規用途の開拓、次期能力増強

〈電解二酸化マンガン〉

- 高性能用途での差別化

〈石英ガラス〉

- 石英生産能力の増強
- 新規素材の開発

〈スパッタリングターゲット〉

- タッチパネル用途での拡販
- 高性能品の開発

有機化成

〈エチレアミン〉

- ハイアミン化による利益極大化

〈ウレタン発泡触媒〉

- TOYOCAT:高機能品の拡販に注力
- RZETA:欧米での販売強化

〈臭素・難燃剤〉

- 次期能力増強を検討

バイオサイエンス

- M&Aを活用した新技術・新製品の獲得

〈計測分野〉

- バイオ医薬向けカラム・分離精製剤の新グレード開発
- トヨパール(分離精製剤)の能力増強

〈診断分野〉

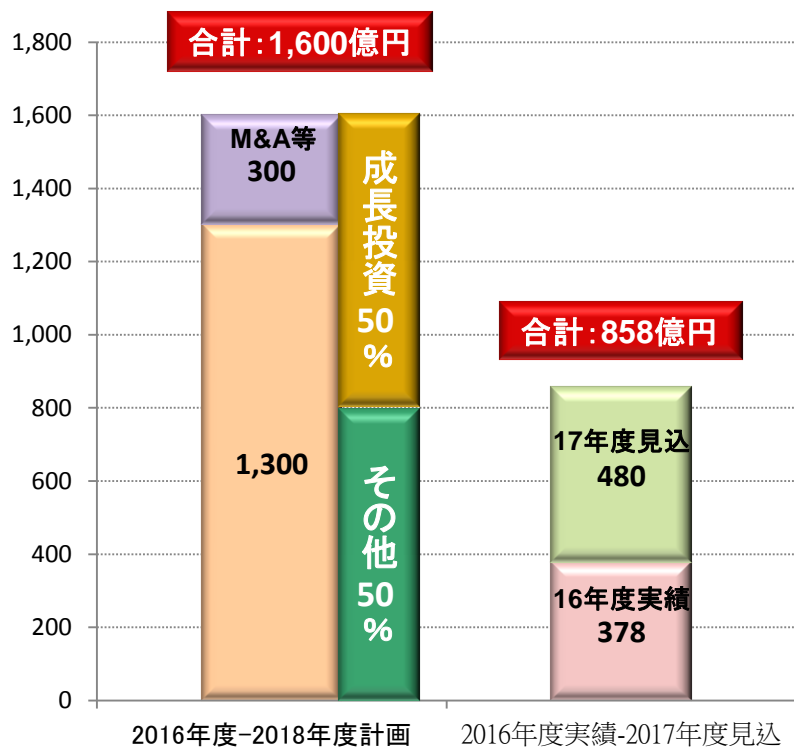
- 成長分野での特徴ある試薬項目拡充
- Tosoh India(15年Lilac社買収)を活用したインド市場の開拓

2-3. 設備投資

中計方針

【コモディティ】 安定供給力と競争力の維持・強化のため、更新・効率化投資を集中的に実施

【スペシャリティ】 成長事業へ拡大投資、R&D*1・M&A*2による事業領域の拡充



主な投資案件

<成長投資>

- AIA試薬の能力増強 (16年11月商業運転)
- シルコニア能力増強 (四日市・17年3月商業運転)
- ハイシリカゼオライト製造設備新設
(マレーシア・17年4月商業運転)
- 臭素製造設備効率化 (17年4月商業運転)
- トヨパール(分離精製剤)能力増強 (18年夏完工)
- PRII社でのPVC能力増強 (フィリピン・18年冬完工)
- ハイシリカゼオライト能力増強 (南陽・19年春完工)

<他投資>

- 発電設備の効率化 (南陽・18年冬完工)
- ナフサ分解炉効率化&ガスタービン設置 (20年春完工)
- 南陽事業所 本館・研究棟建替え
(本館:18年春完工・研究棟:19年秋完工)
- 四日市事業所 研究棟建替え (19年春完工)

2-4. 研究開発

- 重点3分野 **ライフサイエンス** **電子材料** **環境・エネルギー** の研究開発に注力
- 米国情報収集拠点の設置、研究ファンド投資により、技術・M&A情報の収集
- 研究インフラの刷新・機能拡充を推進、持続的成長に向け開発体制

事業領域／拠点	研究所	対象分野	開発テーマ
スペシャリティ製品／ 南陽事業所	有機材料研究所	電材 環エネ	・有機EL用電子・正孔輸送材料 ・環境浄化用薬剤
	無機材料研究所	ライフ 電材 環エネ	・歯科用セラミックス材料 ・触媒用ゼオライト ・リチウム二次電池用材料
石油化学・ ポリマー製品／ 四日市事業所	ファンクショナルポリマー研究所	電材	・ディスプレイ用光学ポリマー ・高機能性ポリマー
	高分子材料研究所	ライフ	・医療用ポリマー材料
	ウレタン研究所	ライフ 電材 環エネ	・機能性ウレタン材料
先端技術創出／ 東京研究センター	ライフサイエンス研究所	ライフ	・診断システム、試薬 ・医薬精製用分離剤
	アドバンスドマテリアル研究所	電材	・電子デバイス用薄膜形成材料 ・半導体・LCD用石英ガラス

開発成果

ライフ

低分子化抗体精製向け充填剤、抗体医薬向け分析カラム

電材

塗布系有機EL材料、高性能ガスバリア材料、新規導電性高分子材料

環エネ

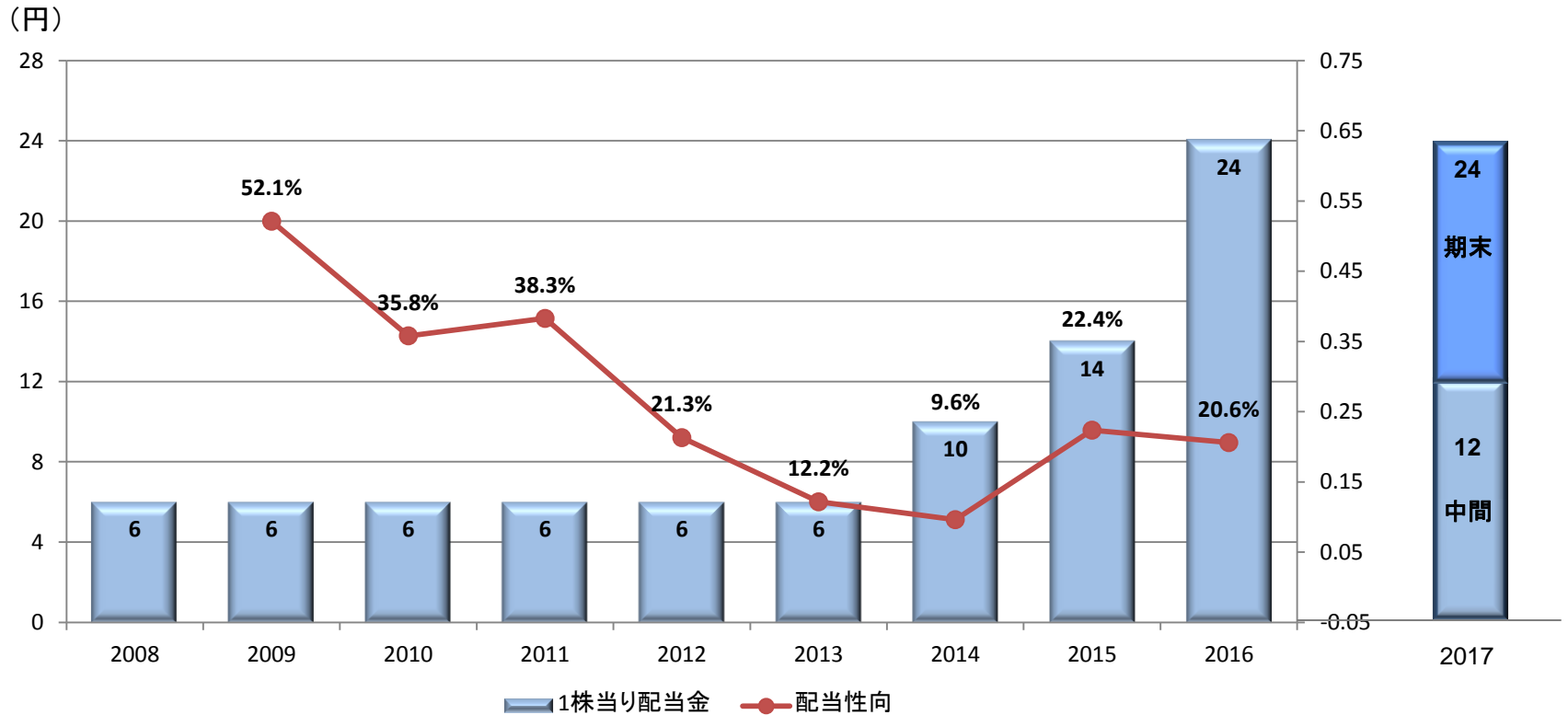
高性能排水用重金属処理剤

4. 株主還元

4. 株主還元

- 安定配当の継続(期間業績・フリーCF・将来の事業展開等を総合的に勘案)
- 中長期的には、配当性向30%を目指す

2017年度配当額: 中間 12円、期末 24円*



※2017年10月1日に2株を1株に併合

《注意事項》

本資料の計画は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した予想です。

従いまして、今後の国内外の経済情勢や予測不可能な要素等により、実際の業績は計画値と大幅に異なる可能性があります。

(完)